

# 珠洲警察署統合 能登警察署

4月1日から能登警察署は珠洲警察署能登庁舎に

平成21年6月、石川県警察本部は厳しさを増す治安情勢に的確に対応するため「警察署機能強化計画」を策定した。計画で示された「小規模警察署の統合」により、能登町を管轄する能登警察署は、平成24年4月1日から珠洲警察署と統合することが決まった。

統合によって警察体制がどう変わり、町の治安はどうなるのか―。統合を控えた能登警察署取材した。



## 警察署統合。その目的は

01

昭和29年に現行の警察法が施行されてから、15警察署体制で推移してきた石川県警察。58年ぶりの警察署再編の目的を新澤克之次長に聞いた。



新澤克之さん

Shinzawa Katsuyuki

警部 | 能登警察署次長兼警務課長

### 半世紀ぶりに見直された警察体制

市町村合併や道路交通網の発達、携帯電話やインターネットの普及など社会情勢の変化とそれに伴う犯罪の悪質・巧妙化、広域・スピード化、国際化などが進み、治安情勢は大きく変化しています。

限られた警察力を最大限活用し、将来にわたって治安情勢に対応できる警察組織とするため、警察署の在り方を中心に検討が進められてきました。

検討を進める中で、能登警察署のような規模の小さい警察署が抱える課題が浮き彫りになりました。つまり、体制が小さい現状では昨今の複雑化する犯罪に対して迅速・的確に対応することが難しい状況にあり、警察署の規模を大きくすることで警察署機能を強化することになりました。

### 機能強化によって警察の機動力が向上

4月から能登警察署は珠洲警察署と統合します。珠洲署と能登署は事件・事故の件数に大きな差はありませんが、事件の捜査で関連が深い裁判所や検察庁に近いことなどが考慮され本署は珠洲警察署に決まりました。

統合の目的は合理化ではなく「機能強化」です。規模が大きくなることで、駐在所員の不在解消や夜間・休日の体制強化、さらにパトロール要員なども増強されるため、事件事故に対する警察の機動力は、これまで以上に向上すると考えています。

「能登警察署」という名前はなく残りますが、建物は「能登庁舎」として残ります。今後も地域の治安を守る拠点として、窓口業務などのサービスを含めて住民の皆さんが不便を感じないよう十分に配慮します。

警察署が無くなることで、不安やさみしさを感じている人もいるかと思いますが、不便はほとんどなく、警察機能の強化で治安は維持されますので安心していただきたいと思います。

合理化ではなく「機能強化」。

夜間・休日の対応や

パトロールが強化され

警察の機動力は向上する。

### 小規模警察署の問題点

- ①夜間、休日の当直体制が不十分  
→事件・事故などで待機署員を非常招集することとなり、迅速な対応ができない場合がある。
- ②大規模な事件・事故発生時の初動体制が不十分  
→現場対応、事件指揮、署員招集、警察本部との連絡調整、報道対応など、さまざまな業務に同時に対応できない場合がある。
- ③本署の応援で交番・駐在所員が不在  
→本署要員が多数必要な業務や欠員となった場合に交番・駐在所員を転用。その間、駐在所員などが地域に不在となる。

※石川県警察 警察署機能強化計画より抜粋



# 能登警察署の歩み

明治6年4月、輪島警察署宇出津屯所の設置にさかのぼる能登警察署。その変遷と近年実施されてきた独自の取り組みを振り返る。

## 変遷を重ねた能登警察署

明治6年に設置された宇出津屯所は、現在の能都地区、柳田地区のほか、穴水町の一部と輪島市の一部を含む6つの駐在所を管轄していた。

以後、町村合併や警察機構の改正などで何度も管轄を変更しながら、昭和30年以降は旧能都町と旧柳田村を管轄する「能都警察署」として約50年間、地域の治安を守ってきた。

平成17年3月、能登町誕生に伴って旧内浦町を管轄に含めた「能登警察署」に改称。『和同団結、相互援助、積極創造』を署訓に行政、地域住民、警察が一体となって治安維持に取り組んできた。

近年は小規模警察署の機動力を生かし、地域に密着した能登警察署独自の取り組みにも力を



昭和30年ごろの能都警察署庁舎

入れてきた。その代表例が「反射材着用」とマスケットキャラクター「ほくす君」だ。

## オンリーワンの独自活動

平成20年4月から、能登町交通安全協会と能登警察署がタイアップして「ピカピカ作戦」を展開。高齢者の交通事故防止を目的に反射材の貼り付けや反射タスキの配布を始めた。

22年9月には、持木一茂町長が「反射材着用の町」を議会で宣言。反射タスキ着用者への特典付与など商店連盟の後押しもあり、町内歩行者の着用率は大幅にアップしている。石川県内では断トツの着用率を誇り、昨



【写真上】昨年5月、能登警察署と能登町交通安全協会がクラブ活動で帰りが遅くなる能登高校ソフトテニス部に反射タスキを寄贈。

【写真下】反射タスキ着用モデル犬ウエンディと飼い主の大柳公男さん。毎日の散歩で反射タスキ着用を呼びかけている。

【写真左】平成10年、柳田地区の防犯委員らによって結成された「や防一座（やぼういちざ）」。振り込め詐欺の手口などを分かりやすく披露する。駐在所員やほくす君も出演。



年一年間は目標であった交通事故死ゼロを達成した。防犯では「ほくす君」が大活躍。22年6月に四コマ漫画から生まれたキャラクターは現在、金融機関窓口からスーパーマーケットまで、あらゆる場所で防犯を呼びかけている。交通推進隊や沿岸警備協力会などボランティア団体の活動が活発なことも能登警察署の特徴。警察も団体代表らも「統合でこれまでの活動が無くなってしまう意味がない」と口をそろえる。警察署統合後も、行政、住民警察が協力して能登町の治安維持に取り組んでいくことは変わらない。

## INTERVIEW



能登町少年補導員連絡会 会長  
池岸雅弘さん  
(宇出津)

「取り締まる」のではなく、「ふれあい活動」など子どもたちと同じ目線で付き合うことで犯罪や被害を未然に防ごうと活動しています。警察署へ気軽に相談できるような、地域と警察の距離を縮める役割も、これまで以上に重要になると考えています。

主な活動は毎月1日と15日の交通監視や交通安全週間の赤ランプ作戦、イベントの交通整理など。警察も交通推進隊も「死亡事故ゼロ」という同じ目標を持って常に協力しながら活動しています。

統合後も警察との合同訓練などを続けてほしいと思います。



能登町交通推進隊 隊長  
石田正栄さん  
(鶴川)



能登町沿岸警備協力会 会長  
櫻井隆志さん  
(宇出津)

「二度とこの町から拉致事件を起こしたくない」という思いで、会員50人が月に1回、沿岸パトロールをしています。統合についてはさみしい思いもありますが、今後も警察と連携・協力して活動を続けていくので、地域の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

## 町内9つの駐在所に変更はありません。

地域住民に最も近い場所での安全安心を守る駐在所員を紹介します。



松波駐在所 ☎ 72-0014  
谷口賢良 警部補  
これからも地域の皆さんのために頑張ります。



不動寺駐在所 ☎ 72-0632  
川端 充 巡查長  
何かあったら、いつでも連絡してください。



小木駐在所 ☎ 74-0019  
又多 猛 巡查部長  
4月以降も駐在所は変わりません。安心してください。



縄文真脇駐在所 ☎ 62-0090  
西岡靖幸 巡查長  
地域の皆さんと一緒に高倉地区の治安を守っていきたいです。



鶴川駐在所 ☎ 67-2200  
佐藤淳一 巡查長  
気軽にいつでも駐在所に立ち寄ってください。



瑞穂駐在所 ☎ 67-2120  
田中邦夫 巡查部長  
皆さんと笑顔の絶えない元気な瑞穂地区をつくっていきたいです。



鶴町駐在所 ☎ 62-0683  
山下峰男 巡查部長  
交通事故防止のため反射タスキを忘れずにつけていきましょう。



柳田駐在所 ☎ 76-0059  
鷲竹文雄 警部補  
交通事故と振り込め詐欺に遭わないよう気を付けてください。



当目駐在所 ☎ 76-0630  
桶田淳二 巡查長  
振り込め詐欺に遭わないよう、気軽に相談に来てください。



※珠洲署と能登署の統合のほか  
輪島署と穴水署が統合して輪島署と穴水庁舎に  
松任署と鶴来署が統合して白山署と鶴来庁舎に  
なります。

■能登庁舎で取り扱う主な窓口業務 (4月1日以降)

主な窓口業務	能登庁舎
運転免許証の更新	○
優良運転者講習該当者 一般運転者講習該当者 高齢者講習該当者	○
違反運転者講習該当者 初回更新者講習該当者	○
運転免許証の再交付申請	○
運転免許証の記載事項の変更届出	○
運転免許証の自主返納 (申請による運転免許の取消)	○
運転経歴証明書の申請	○
自動車保管場所証明申請・交付	○
道路使用許可申請・交付 (協議・交通対策などを必要としないものに限る)	○
警察安全相談の受理	○
落とし物 (遺失届・拾得届) の受理	○
被害届・交通事故の届出	○

※所在地・連絡先 (☎ 62-1334) は変更ありません。

■珠洲警察署のみで取り扱う主な窓口業務

- ・銃砲刀剣類、古物営業、風俗営業、警備業などの許認可事務
- ・落とし物 (拾得物) の返還
- ・自動車運転代行業関係 など

も活発に活動してくれていま  
す。警察としては非常にありが  
たく、統合後もこれまでどおり  
の協力をお願いしたいと思っ  
ています。

**安心・安全なまちづくりを**

私は赴任以来、「小さくても  
キラリと光る能登警察署」をス  
ローガンとして、署員に「町民  
目線で仕事をしろ」と言い続け  
てきました。自分が良いと思っ  
たこと、住民のためになると  
思ったことを積極的にやるとい  
う思いが、「反射材着用」や「ほ  
〜す君」など独自の活動につな

がりました。

4月以降も、これまで培われ  
てきた警察と住民の深い関係を  
維持しながら、能登警察署の署  
訓でもある「積極創造」を胸に  
能登町独自の活動を継続・発展  
させてほしいと思います。

安心・安全のまちづくりは、  
警察だけで実現できるものでは  
なく、住民の皆さんの協力が必  
要不可欠です。

今後も警察に対するご指導と  
ご協力をお願いするとともに、  
我々警察も、引き続き能登町の  
治安維持に全力で取り組んでい  
きます。



# さらなる安心安全への決意

03

能登警察署最後の署長となる寺西清志署長に、能登警察署管内の  
特徴や今後の治安維持への決意を聞いた。



寺西清志さん

Teranishi Kiyoshi  
警視 | 能登警察署長

安心安全なまちづくりは  
警察だけでは不可能。  
住民の皆さんには  
今後も積極的なご指導と  
ご協力をいただきたい。



統合のメリット

4月1日から能登警察署は珠  
洲警察署能登庁舎となります。  
この統合は警察にとっても住民  
の皆さんにとってもメリットが  
多いと言えます。

治安に関しては、まず9つの  
駐在所がそのまま残ります。パ  
トロール要員も増強されるた  
め、事件が発生した場合の初動  
態勢は今まで以上に迅速・的確  
に対応できるようになります。

町内にある警察官舎もそのま  
ま残ります。夜間に事件が発生  
しても官舎から警察官が直行し  
ますので、警察機動力はより強  
化されると言えます。

運転免許証の更新など警察窓  
口業務は、一部を除いてほとん  
どが残ります (左※参照)。さ  
らに、現在庁舎2階にある受付  
窓口を1階に降ろす予定にして  
おり、サービスの面からも不便  
は一切ありません。

祭りの警護も万全に

能登警察署の業務は「祭りに  
始まって祭りで終わる」と言え  
るほど、祭りの比重が大きいも

のでした。特にあはれ祭は、非  
常に多くの方が宇出津を訪れま  
す。能登警察署だけでは警備が  
間に合わないため、県警機動隊  
などから応援を頼まなければな  
らない状況です。ほかにも大き  
な祭りがたくさんありますので  
、祭りシーズンは気が許せな  
い状況が続きました。

統合されることで珠洲警察署  
の体制が強化されますので、町  
民の皆さんにとって、より安心  
安全なあはれ祭の警備ができる  
と思っています。

警察と住民の距離

現行警察法が施行されてから  
58年、能登警察署の署長は私で  
41代目になります。2年前に赴  
任して以来、私が能登警察署で  
感じたことは、住民と警察の関  
係が濃厚であることです。県内  
のどの地域よりも、能登町の皆  
さんは警察を大事にしてくれ、  
積極的に協力してくれます。こ  
れは、いざというときには警察  
が守ってくれると頼りにしてく  
れている証しだと感じました。

特に警察に関連するポラン  
ティア団体の皆さんは県内で最



能登町一チン

能登警察署マスコットキャラクター

# ほ～す君

ほ～す君の生みの親

窪田ますみさん

## ほ～す君誕生

「その振り込み馬ったー！  
お決まりのポーズで防犯を訴える馬のキャラクター。『広報のと』で人気連載中の四コマ漫画『のとけいさつ』のほ～す君の二コマだ。

「鳳珠郡からほ～す君。試しに書いてみたら好評でした」と話すのは、漫画の作者で『ほ～す君』の生みの親、窪田ますみさん（33）＝宇出津＝。

平成22年3月末、夫で警察官の窪田大輔さん（30）が能登警察署生活安全刑事課に配属となり防犯担当に。独自の取り組みを夫婦で考えた末に、キャラクター『ほ～す君』が誕生した。「四コマ漫画にして広報紙で掲載できれば」と考えた大輔さんが町広報情報推進課に打診。22年7月号から『広報のと』での連載が始まった。

振り込み詐欺など最新の犯罪手口からお祭りでの呼びかけまで、毎回テーマを決めるのは大

輔さん。『ほ～す君』最初の読者でもある。

「企画から書き上げるまで10日間くらいで、主人に見せて『いいね』と言われることが一番うれしい」と話すますみさん。昔から漫画を描くのが好きで、中学時代は美術部、高校では美術を専攻していたという。

「伝えたいことを全部書く文字ばかりになってしまいません。関心がない人にも見てもらえるよう、要点を絞ってできるだけシンプルにするよう気を付けています」と語る。

## サブキャラ登場へ

連載が続くと「面白い」「毎月楽しみにしている」「隣の人の注意できないことが描いてあってうれしい」などの声が届くようになった。

漫画の好評を受けて、能登警察署は『ほ～す君』を同署のマスコットキャラクターに採用。発砲スチロールや布などの材料を夫婦で集めて、ますみさん手

## 『ほ～す君』を読んで、防犯についてもう一度考えるきっかけにしてほしい。

作りの着ぐるみも制作した。

『ほ～す君』の着ぐるみは能登警察署の防犯キャンペーンなどに出勤。振り込み詐欺の被害防止などを街頭で呼びかけた。

「子どもが寄ってきてくれるので親にも関心を持ってもらえます」と防犯担当の大輔さんにはっこり。制作に3週間かかったというますみさんも「思っていた以上に上手にできました」と満足げだ。

22年11月号には読者から提案された新キャラクター、宇出津にちなんだ『うしっ子ちゃん』が登場した。これをきっかけにして、能登警察署は町内小学生を対象に新キャラクターを募集。208点の応募から14点が優秀作品として選ばれた。審査員を務めたますみさんは

「自分でも思いつかないキャラがたくさんいて驚きました。サブキャラを登場させることで四コマ漫画の内容も充実させることができました」と振り返る。

最優秀作品『能登町一チン』もますみさんが忠実に再現して制作。年末年始特別警戒取締りでは、寺西清志署長と持木一茂町長が『能登町一チン』を手に夜の街をパトロールした。

## 安心なまちへの思い

「子どもたちが安心できるまちづくりは一度志した道。こういう形で携わることができてうれしい」と話すますみさん。実は元女性警察官でエアライブル・ピストルの名手。高校時代から国体出場通算8回、優勝3

回という成績を誇るエキスパートだったが、第二子の出産を機に退職した。現在は3人の子どもを持つお母さんだ。

「漫画を描きながら、世の中には分かったつもりが多量にあって実感し、自分の勉強にもなっています。漫画を読んでくれた人が、もう一度考えるきっかけにしてほしい」と漫画に込める思いを語る。

警察官には異動がつきもの。大輔さんが異動になって能登町を離れたら『ほ～す君』はどうなるのか。

「夫が異動になっても『ほ～す君』の連載はできるだけ続けていくつもりです」能登町の防犯の一翼を、これからもますみさんと『ほ～す君』が担ってほしい。